



オリンピック 聖火リレー

文化・スポーツ振興課
オリンピック・パラリンピックグループ
☎630

7月6日(火)午後5時47分出発予定

3月に福島県をスタートした聖火が富士見市・ふじみ野市・三芳町を走ります。
スタート：つるせ西ゆうゆうの丘公園
ゴール：ふじみ野市立東台小学校入口交差点付近

ランナー：中谷奏空さんほか、入間東部地区にゆかりのある方など計12人
※中谷さんはつるせ西ゆうゆうの丘公園から約250mを走ります。
※公園内での観覧の募集は終了しました。

新型コロナウイルス感染症 感染拡大防止にご協力

- 聖火リレー期間中(7月23日祝まで)は、走行のようすを毎日インターネットのライブ中継で視聴できます。沿道の密を避けるため、なるべくライブ中継をご覧ください。
- 体調が悪い場合は観覧を控えてください。
- 観覧する場合は、マスクの着用などの感染拡大防止対策を実践してください。
- 沿道では大声を出さず、拍手や応援グッズなどを活用して応援してください。
- 観覧時は周囲の方々と適切な距離を取ってください。過度な密集が生じた場合はリレーを中断する場合があります。



※新型コロナウイルス感染症の影響で中止・変更となる場合があります。



元陸上自衛隊中央音楽隊
穴戸 林平 さん

**目の前で聖火台に火が
灯された瞬間の興奮が
忘れられない**

鶴馬1丁目に住む穴戸林平さんは、国立競技場で行われた前回の東京オリンピックの開会式に、陸上自衛隊中央音楽隊の打楽器奏者として参加しました。穴戸さんが立っていたのは、まさに聖火台の前。聖火リレーの最終ランナーが目の前を走り、聖火台に火を灯しました。

「その瞬間、世界が一つになったような気持ちになりました。聖火は日本中をまわり、数多のランナーがつないできた大切なバトン。聖火台

への点火は、観客、100か国以上の国や地域から誇りを胸に来日した代表選手、中継を見ている全世界のすべての方にとって特別な瞬間です。特に、前回大会は戦後の復興を象徴するイベントでしたから、ランナー一人ひとりの想いを、聖火とともに次のランナーに託していました。今回のオリンピックも東日本大震災からの復興やコロナ禍における団結など、皆、伝えたい想いがある状況下です。聖火リレーは、いつの時代も観る者の心を熱くしてくれるものです。

聖火を煌々と灯し続けるのは、他者へ届けたい『想い』なのかもしれません。



**東京2020大会が
私たちに与えるもの**

東京2020オリンピック競技大会の開会式が7月23日(祝)に開催されます。本特集では、オリンピックに関わりのある市民の方などにお話を伺い、その想いから、東京2020大会が本市に与えるものを探っていきます。

**今だからこそ
伝えたい想いがある**

市内在住の中谷奏空さんは、アーティスティックスキミングで全国大会優勝などの経験のある将来有望なアスリート。「これまで応援してもらった地域の方々に、元氣と感謝の気持ちを届けたい」という想いか

ら、聖火ランナー募集に応募し、選出されました。「今回のオリンピックにはたくさんさんの意味があると思うんです。コロナ禍という苦しい状況であること、約60年を経て2回目の東京での開催となること、そして聖火リレーが私の生まれ育ったこのまちにやって来ること。私が走ること、周囲の方には感謝を、苦境に立たされている方には元気を、前回の東京大会を懐かしむ方には想いが引き継がれていることを伝えられたらと思っています」と抱負を語る中谷さん。その笑顔には「聖火リレーを通して人と人とのつながりを深めたい」という想いがあふれていました。

7月6日(火)、聖火をつないできたランナーの想いととも、さまざまな方々へのメッセージを胸に、中谷さんは富士見市を駆け抜けます。

つながるオリンピック

文化・スポーツ振興課 オリンピック・パラリンピックグループ ☎630

いよいよ開幕する東京2020オリンピック競技大会。本市でもオリンピック聖火リレーやホストタウンとしての事前キャンプが予定されています。いずれの事業も、市民の皆さんが安心して応援できるよう、新型コロナウイルス感染症対策を徹底して行いますので、ご協力をお願いします。

Part 1 聖火でつながる



聖火ランナー
中谷 奏空 さん

アーティスティックスキミングで第40回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会優勝、第97回日本選手権水泳競技大会準優勝などの経歴を持つ、高校生の未来のオリンピック



東京2020大会の聖火トーチ。
上から見ると桜の花の形をしている。



Mihail Kajaia

ミハイル・カヤイア
 身長187cm 体重97kg グレコローマン97kg級
 主な戦歴/2019年世界選手権大会3位
 出場予定(1回戦以降は勝敗による)/
 8月2日(月): 1・2回戦(午前11時~午後1時30分)
 準決勝(午後6時15分~10時)
 8月3日(火): 敗者復活戦(午前11時~午後1時30分)
 3位決定戦・決勝戦・表彰式(午後6時15分~10時)



Mate Nemes

マテ・ネメシュ
 身長172cm 体重67kg グレコローマン67kg級
 主な戦歴/2021年ヨーロッパ競技大会優勝
 出場予定(1回戦以降は勝敗による)/
 8月3日(火): 1・2回戦(午前11時~午後1時30分)
 準決勝(午後6時15分~10時)
 8月4日(水): 敗者復活戦(午前11時~午後1時30分)
 3位決定戦・決勝戦・表彰式(午後6時15分~10時)



Stevan Micic

ステヴァン・ミチッチ
 身長168cm 体重57kg フリースタイル57kg級
 主な戦歴/2019年ヨーロッパ競技大会2位
 出場予定(1回戦以降は勝敗による)/
 8月4日(水): 1・2回戦(午前11時~午後1時30分)
 準決勝(午後6時15分~10時)
 8月5日(木): 敗者復活戦(午前11時~午後1時30分)
 3位決定戦・決勝戦・表彰式(午後6時15分~10時)



Zurabi Datunashvili

ズラビ・ダトゥナシュヴィリ
 身長183cm 体重87kg グレコローマン87kg級
 主な戦歴/2021年ヨーロッパ競技大会優勝
 出場予定(1回戦以降は勝敗による)/
 8月3日(火): 1・2回戦(午前11時~午後1時30分)
 準決勝(午後6時15分~10時)
 8月4日(水): 敗者復活戦(午前11時~午後1時30分)
 3位決定戦・決勝戦・表彰式(午後6時15分~10時)

レスリングセルビア共和国代表チーム ここに集結!!

セルビア共和国 レスリング選手団の 事前キャンプ

実施期間/7月20日(火)~31日(土)
 場所/市民総合体育館
 文化・スポーツ振興課
 オリンピック・パラリンピックグループ
 ☎630

選手団の受入れについて

- 選手団は全員新型コロナワクチン接種を済ませています。
- 選手団には全日PCR検査を実施するほか、健康管理を徹底します。
- 選手団は原則として宿泊施設と市民総合体育館の往復のみの行動となります。
- 選手団は、手指消毒などの感染対策を徹底してキャンプを行います。



※新型コロナウイルス感染症の影響で中止・変更となる場合があります。

本市に義援金を贈呈するなど、互いを思いやる関係を築いてきました。

「東京2020大会の開催が決まったとき、一番に『シャバツ市とのつながりを生かせないだろうか』と考えました」と振り返るのは、富士見市国際友好協会会長の牧寿夫さん。38年にわたるシャバツ市との交流の中で、常にその中心的な役割を担ってきました。東京2020大会をその集大成のように感じているようです。「セルビアへの訪問団の一員として事前キャンプに関する協定の締結に立ち会った瞬間は、やはり感極まるものがありました。現在はコロナ禍により直接的な交流が難しいことは理解していますが、それでもみんながよかったと言える



市民・行政職員合同でシャバツ市を訪れた第2次シャバツ市友好訪問団(昭和58年10月)



富士見市国際友好協会 会長 牧 寿夫 さん

形で大会が開催されることを願っています。そして、本大会を契機にさらに両国のつながりを深めたいと思っています」と語る牧さんの眼差しは、これからも続く友好関係を見据えています。

セルビア共和国のホストタウンに登録されている本市では、同国代表レスリングチームが市民総合体育館で事前キャンプを実施します。市を訪れるのは、厳しいヨーロッパ予選を勝ち抜いた4選手。いずれの選手も国際大会で顕著な成績を残しています。セルビアは前回のリオデジャネイロオリンピックで金メダルを獲得しており、今大会でも活躍が期待されています。

ホストタウンの登録には、富士見市国際友好協会を中心とした、昭和57年から続く市とセルビア共和国シャバツ市の姉妹都市としての交流がありました。姉妹

より深くつながり合える未来へ

Part 2 国を超えて つながる



富士見市民の皆様へ

本国シャバツ市との長年にわたる姉妹都市としての交流が、東京2020大会におけるホストタウン登録の礎になっています。登録に際し、星野市長や富士見市国際友好協会牧会長など、市の多くの方にご尽力いただいたこと、心から感謝しています。

世界が大きな困難に立ち向かう中、本国の選手たちはセルビア代表としての誇りを胸に、自らに課した厳しい規律のもと、絶え間ない努力を重ね、日本に旅立ちます。これまで富士見市が発信してきた応援メッセージや小学生による手紙交流などにより、選手や国民の間での本大会に向けた機運は高まっています。市民の皆様一人ひとりの「セルビアを応援している」というメッセージが、選手たちを良い結果へと導いてくれると信じています。

ホストタウン事業を通して、富士見市とシャバツ市、そしてセルビア共和国との友好関係がさらに発展することを期待しています。

セルビア共和国大使館 イヴァナ・ゴルボヴィッチ・ドゥボカ 臨時代理大使



Part 3 市民の絆が つながる

つながりから新たな つながりを生み出す

セルビア共和国のホストタウン登録後、市民の皆さんの東京2020大会への機運醸成のため、市ではホストタウン関連事業を開催してきました。

開催にあたって、準備から運営まで携わってきたのが「富士見TOPサポーター」の皆さん。スポーツ関係者やセルビアに居住歴のある方など、約130人が登録しています。
TOPサポーターの一人であ

人と人、想いと想い が結びつく

「私がこのまちに住み始めた時、近隣の方々がまるで古くからお付き合いがあるように親しく接してくれたのがとてもうれしかったことを覚えています。ロンドンオリンピックから帰ってきた時に多くの市民の皆さんが迎えに来てくれたことにも驚きました」と語るロンドンオリンピックレスリング女子48kg級金メダリストの小原日登美さんも、つながりの大切さを知る市民の一人です。「ロンドンオリンピック出場までの厳しいトレーニングを乗り越えられたのも、金メダルを獲得できたのも『みんなが応援してくれているんだ』と絆を感じて戦うことができたから。苦しい時こそ応援が力になり、踏ん張ることができるのです」と語る小原さん。現在は富士見キッズレスリング教室を開催し、レスリングを通じてスポーツの魅力と絆の大切さを子どもたちに伝えていきます。「絆の力が生きるのには、スポーツに

る大山安則さんは、市民と行政が協力して事業を開催する意義について「もともと自分の住む地域の町会活動などを通して、地域のつながりの大切さを感じていました。TOPサポーターの活動を通して、参加者やTOPサポーターの仲間など新たなつながりを持つことができましたし、参加者同士をつなぐこともできたように思います」と語ります。大山さんが市に移り住んだ時、近所の多くの方が気さくに声をかけてくれたことを振り返りながら「地域のつながりは、富士見市の最大の持ち味。ホストタウン事業や本大会の開催によりさらにそれが深まればと思っています」と語り、これまでのつながりから、また新たなつながりが生まれていくことに期待を寄せていました。



富士見TOPサポーター 大山 安則 さん



ロンドンオリンピックレスリング女子48kg級金メダリスト・富士見市PR大使 小原 日登美 さん

限ったことではありません。私がそうであったように、東京2020大会でも、多くの方が絆の大切さを再確認できるような大会になればと思っています」。小原さんが語った言葉は、人と真剣に向き合うことで固い絆が生まれるということを教えてください。

今回お話を伺った方が語ったのは、いずれも「人と人とのつながりの大切さ」。オリンピックを通してそのつながりをさらに深めたいという「希望」です。
さまざまの方が関わりあってつくり上げていく私たちのオリンピック。それは8月のパラリンピックにも引き継がれていきます。人と人、想いと想いを結び付けながら、そのバトンを次の世代へとつなげていきます。



(写真提供：自衛隊体育学校)